

令和元年度(2019年度)高等学校OPENプロジェクト実施報告書(2年次)

研究指定校	北海道八雲高等学校	教育局	渡島教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題	
「SDGsを踏まえた魅力的な町づくり」～地域社会の活性化による若者の定着率向上を高める～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
4月	・ピア・サポートトレーニングを開始。(本校:指導者の育成)
7月	・地域行事「八雲山車行列」への参加協力。 ・八雲中学校と野田生中学校でのピア・サポート交流会を実施。
8月	・2年生の「総合的な学習の時間」で農林漁業出前講座を実施。 ・熊石中学校でのピア・サポート交流会を実施。
9月	・2年生が町内でインターンシップを実施。 ・上智大学の学生と本校生徒の八雲町のまちづくりに関する意見交流。
10月	・「まちづくり会社」事業の一環として第1回商人塾を開催。総合ビジネス科の2、3年生が商品開発におけるネーミングやキャッチコピーについて学習。(人材育成事業) ・本校生徒が「八雲地域子ども会ひろば」にボランティアとして参加。地域の幼児・小学生と交流。 ・2年生の見学旅行で八雲と関係の深い名古屋を訪問、「名古屋徳川美術館」等での研修を実施。 ・本校生徒が町内で撮影した写真や情報について、地元の魅力発信として北海道八雲町地域おこし協力隊のFacebookページに掲載開始。
11月	・物産振興事業で開発した商品のテストマーケティングを実施。
12月	・1年生の「総合的な探究の時間」において「八雲を知る学習会」を開催。八雲町の歴史、産業、農業について学習。 ・町内中高生に対して八雲町についての意識調査アンケートを実施。
1月	・「高等学校OPENプロジェクト」全校発表会を実施。 ・総合ビジネス科3年生「課題研究発表会」を町、地元企業、地域住民等を招いて開催。
2月	・札幌大谷大学の学生と本校生徒によるフィールドワーク及びワークショップを実施。町づくりに関する意見交流会を実施。 ・八雲町長及び運営指導委員等を招いて成果報告会を開催。取組において明確になった八雲町の活性化に向けた取組や課題について提言。 ・落部中学校でのピア・サポート交流会を実施。

3 地域みらい連携会議の開催内容

第 1 回	令和元年 7 月 22 日 (月) 15:40～16:40
出席者	竹内委員、西山主査・中川主事 (渡島総合振興局)、黒宮主任指導主事 (渡島教育局)、三浦校長、千葉教頭、青沼教諭、藤島教諭、坂本教諭、長野教諭、本校生徒 (3 名)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次の事業報告 (成果と改善点) について ・ 2 年次の事業計画について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒自らが主体的に行動し、情報を収集することが重要。 ・ 学校外、町外などの外部の意見を取り入れるとよい。 ・ 観光名所や穴場スポットの紹介にとどまらず、「人の輪」を拡げる、地域で活躍している人を紹介するなどして、八雲と交流を深める人をつくり、移住する人を創造できるとよい。

第 2 回	令和元年 10 月 16 日 (水) 15:40～16:40
出席者	竹内委員、佐々木主事 (渡島総合振興局)、佐々木主査 (渡島教育局)、三浦校長、千葉教頭、青沼教諭、藤島教諭、坂本教諭、長野教諭、生徒 (9 名)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次の活動報告 (中間報告) ・ 「全道フォーラム」の発表について ・ 今後の取組について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全道フォーラムの生徒発表における改善点の助言。 ・ 発表の内容に対する課題の解決案を今後の取組で生徒自らが考え、答えを導いてほしい。

第 3 回	令和 2 年 1 月 28 日 (火) 11:20～12:20
出席者	竹内委員、石坂委員、西山主査、佐々木主事 (渡島総合振興局)、河村指導主事 (渡島教育局) 三浦校長、千葉教頭、青沼教諭、池田教諭
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次の活動報告 ・ 3 年次の取組について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校の取組となるような方法を検討すること。 ・ OPENプロジェクト以外でも町は高校と関わっていきたいと考えている。連携で町も元気になり、高校の存続にも繋がる。 ・ 卒業生とも関わりをもって、色々な経験を通じ、八雲町を知ることが大事。地元の人を招いた講演なども開催したらどうか。

4 研究の成果と課題

(1) 目的の達成状況

- 平成30年度と令和元年度に実施した意識調査アンケートの比較で「八雲町のいいところ、誇れるところ、魅力について」の「自然・環境 (92.1%→97.1%)」、「酪農が盛ん (92.6%→96.3%)」、「山車行列などの祭りや行事 (87.4%→88.2%)」といった項目で高校生の肯定的な回答の割合が上昇していることから、講演会等で八雲を学ぶ機会が増えたことの成果がうかがえる。
- 本校生徒は、町内の中学生に対して実施している「ピア・サポート活動」を通して、地域における高校生としての役割について改めて認識することができた。
- 意識調査アンケートの「八雲町に対しての意識・興味・関心について」の多くの項目で、令和元年度の肯定的な回答の割合が平成30年度より下回っていた。進路選択が間近に迫った高校生が進学のために八雲町を離れることを考えていることが要因と考えられる。

(2) 目標の達成状況

- 「まちづくり会社」事業において、町、事業者、地域おこし協力隊及び学校が連携したことで、本校生徒は地域の課題を認識するとともに、若者が地域に果たす役割の大きさも知ることができた。また、人材育成の目的で実施された「商人塾」においては、授業で得た知識を外部講師から実践的に学ぶことが生徒の興味・関心に繋がるなど、今後の人材育成カリキュラムの礎となった。
- 八雲町の魅力を発信するプロジェクトにおいては、北海道八雲町地域おこし協力隊のFacebookのページを活用した発信に取り組んでいるが、発信するターゲットや効果を考えて十分に推進することができなかった。

(3) 実践研究の規模

- 町内の事業者、本校、八雲町地域おこし協力隊及び八雲町が協働して取り組む「まちづくり会社」物産振興事業の商品開発については、総合ビジネス科の課題研究や総合実践を活用して実施したことから、今までの授業で習得した内容を実際の仕事でどのように活用するかという実践的な学習ができた。
- 「八雲を知る」、「農林漁業出前講座」等の講演については、1学年の「総合的な探究の時間」や2学年の「総合的な学習の時間」を中心に、地歴公民科の授業においても取り組むことにより、教科等横断的な連携が図られ、全校的な取組につなげることができた。
- 物産振興事業は総合ビジネス科による活動、情報発信プロジェクトは生徒会執行部や有志での活動となったことから、学校全体で取り組む機会は少なかった。

(4) 研究成果の普及

- 本校ホームページに「高等学校OPENプロジェクト」専用ページを作成し、これま

での取組について発信した。

- 学校だよりに本取組を掲載し、町の全戸、各中学校へ配布することで、活動内容や成果を広く地域に発信した。
- 物産振興事業に関しては、新聞・テレビにも取り上げられた。また、テストマーケティングの際には本校が開発に関わっていることをPRしてもらうことなどを通して、町内・町外に広く発信することができた。
- 総合ビジネス科における「課題研究発表会」では地域の方々の参加をいただき、取組について理解していただくことができた。

(5) 実践研究内容

- 総合ビジネス科の「課題研究発表会」には地域住民や関係機関から13名の参加をいただいた。地域みらい連携委員からは「発表はすごく良かった。企業の方と一緒に開発することは知識の差もあって難しいが、生徒もよく勉強している。取組を通して生徒が町のことを理解したことが印象的」との高い評価を受けた。また、他校の教員の参加も得ることができ、本校の取組に対する地域の理解を得ることができた。
- 上智大学や札幌大谷大学の学生と本校生徒とのフィールドワークやワークショップであった意見交流では、本校生徒は町外の大学生の意見を聞くことで、地元や地元以外に対する思いや八雲町に対する新たな視点を得ることができた。
- ピア・サポート交流について、昨年度まで実施していなかった落部中学校からも要請があり実施した。このことにより、町内全中学校で実施することとなったことから、より中高連携が深まりつつある。

(6) 地域みらい連携会議

- 3回の連携会議で、取組の改善点などの助言をいただいたことで、今後の取組内容や方向性を決定することができた。
- 本校生徒も会議に参加させるためには、放課後しか会議の時間として確保ができないことから、他の連携委員の方々に配慮いただくなど、調整上の困難があった。

5 プロジェクトの達成状況			
(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 347 1380 492"> <p>(評価)</p> <p>一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながった取組となった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 492 1380 616"> <p>(評価した理由)</p> <p>「農林漁業出前講座」、「物産振興事業」及び「八雲を知る学習会」を通して人材育成の一助とすることができたため。</p> </td> </tr> </table>		<p>(評価)</p> <p>一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながった取組となった。</p>	<p>(評価した理由)</p> <p>「農林漁業出前講座」、「物産振興事業」及び「八雲を知る学習会」を通して人材育成の一助とすることができたため。</p>
<p>(評価)</p> <p>一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながった取組となった。</p>			
<p>(評価した理由)</p> <p>「農林漁業出前講座」、「物産振興事業」及び「八雲を知る学習会」を通して人材育成の一助とすることができたため。</p>			
(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 705 1380 862"> <p>(評価)</p> <p>地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 862 1380 974"> <p>(評価した理由)</p> <p>まちづくり会社の物産振興事業で、町・事業者・地域おこし協力隊との連携のもと、特産品の開発・販売を実施することができたため。</p> </td> </tr> </table>		<p>(評価)</p> <p>地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。</p>	<p>(評価した理由)</p> <p>まちづくり会社の物産振興事業で、町・事業者・地域おこし協力隊との連携のもと、特産品の開発・販売を実施することができたため。</p>
<p>(評価)</p> <p>地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。</p>			
<p>(評価した理由)</p> <p>まちづくり会社の物産振興事業で、町・事業者・地域おこし協力隊との連携のもと、特産品の開発・販売を実施することができたため。</p>			
(3) [評価の観点] 生徒の主体性について			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 1064 1380 1164"> <p>(評価)</p> <p>生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 1164 1380 1288"> <p>(理由)</p> <p>プロジェクトの取組に対する方向性等の指示は必要であるが、それぞれの内容について、生徒が独自の発想をもって取り組むことができたため。</p> </td> </tr> </table>		<p>(評価)</p> <p>生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。</p>	<p>(理由)</p> <p>プロジェクトの取組に対する方向性等の指示は必要であるが、それぞれの内容について、生徒が独自の発想をもって取り組むことができたため。</p>
<p>(評価)</p> <p>生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。</p>			
<p>(理由)</p> <p>プロジェクトの取組に対する方向性等の指示は必要であるが、それぞれの内容について、生徒が独自の発想をもって取り組むことができたため。</p>			
(4) [評価の観点] 地域課題の解決状況について			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 1377 1380 1489"> <p>(評価)</p> <p>取組により、地域課題の解決につなげることができた。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 1489 1380 1624"> <p>(理由)</p> <p>意識調査アンケートからも地元「八雲を知る」という観点では成果がうかがわれ、郷土愛醸成の一助となっているため。</p> </td> </tr> </table>		<p>(評価)</p> <p>取組により、地域課題の解決につなげることができた。</p>	<p>(理由)</p> <p>意識調査アンケートからも地元「八雲を知る」という観点では成果がうかがわれ、郷土愛醸成の一助となっているため。</p>
<p>(評価)</p> <p>取組により、地域課題の解決につなげることができた。</p>			
<p>(理由)</p> <p>意識調査アンケートからも地元「八雲を知る」という観点では成果がうかがわれ、郷土愛醸成の一助となっているため。</p>			
6 今後の取組			
<ul style="list-style-type: none"> ・今後本格化する「まちづくり会社」に本校生徒がどのような形で参画できるか、また地域課題に取り組むことにより、研究の目標である「地方創生」と「若者の地元定着」を達成できるかについて、地域の各団体との連携を図りながら取組を推進する。 ・2年次で取り組んだ「八雲町の魅力の情報発信」や「物産振興事業」の取組を後輩に継承し、継続することで、郷土愛を醸成するとともに本校生徒の地域に対する役割を認識させる取組を実践する。 			

7 参考資料

(1) 「農林漁業出前講座」



令和元年8月21日(水)

八雲町で農林漁業に従事している方々（全員八雲高校出身者）に講演いただき、仕事に就くまでの経緯や、現在の仕事内容などについて聞いた。（写真は出前講座の様子）

(2) Instagram「北海道八雲町地域おこし協力隊」のページにおいて「八雲高校 八雲の情報発信プロジェクト」を展開（令和元年10月8日～）



(3) 「北海道新聞」（令和元年11月20日）



令和元年11月23日(土)・30日(土)

「物産振興事業」で共同開発した「海鮮ふりかけ」、「ホワイトベリーバブル（いちごのタピオカドリンク）」及び「簡単にこうじ水が作れる麴パック」の3商品のテストマーケティングを町内で実施した。（写真はテストマーケティングについて紹介された新聞記事）

(4)「成果報告会」



令和2年2月7日(金)

岩村克詔様(八雲町長)、平野正明様(北海道教育庁教育部長)、石井吉春様(高等学校OPENプロジェクト運営指導委員長)をはじめ11名の来賓の方の参加をいただき、OPENプロジェクトの活動報告、取組で明らかになった課題の解決に向けた提言を生徒会執行部の生徒が発表した。(写真は生徒が課題等について発表している様子)